

2. 火山の概況

(平成 16 年 2 月 19 日 ~ 平成 16 年 2 月 25 日)

十勝岳ではごく小規模な噴火が発生した。

吾妻山では地震がやや多い状態が続いた。

浅間山では地震がやや多い状態が続いており、
火山活動度レベルは2であった。

三宅島では噴煙活動が継続し、多量の火山ガスの放出が続いた。

阿蘇山では浅部の熱的な活動が引き続き活発で、小規模な土砂噴出が継続した。レベルは2。

桜島では噴火が発生した。レベルは2。

口永良部島では地震と微動がやや多く発生した。

なお、期間外の 26 日夜~27 日朝にかけて、伊豆大島で地震が多くなった。レベルは引き続き1。



表1 最近1か月に記事を記載した火山

号	対象期間	浅間山		伊豆大島		阿蘇山		雲仙岳		桜島		十勝岳	吾妻山	箱根山	三宅島	八丈島	福徳岡ノ場	霧島山	口永良部島	諏訪之瀬島	
		レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号												
10	2/26- 3/ 3																				
9	2/19- 2/25																				
8	2/12- 2/18																				
7	2/ 5- 2/11																				
6	1/29- 2/ 4																				
5	1/22- 1/28																				

注1 記号の意味

- : 噴火した火山
- : 観測データ等に变化があった火山
- : 前期間まで や で掲載した火山の、その後の状況等
- : その他記事を掲載した火山
- 等の丸付き数字: 火山活動度レベル

注2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、变化があった観測データ項目を示す。

十勝岳 [噴煙・微動]

2月25日の夜間に、ごく小規模な噴火が発生した。

25日21時07分頃から振幅の小さな微動が観測され、その直後から62-2火口の噴煙が火山灰混じりの有色に変わった。噴煙の高さは火口縁上200~300mで、東方向に流れていた(図2)。噴煙の勢い



図2 十勝岳 2月25日夜の噴煙の状況(62-2火口の北北西約6kmに設置した高感度カメラによる)
左: 微動発生前(2月25日20時28分頃)、右: 微動発生中(2月25日22時18分頃)
噴煙の勢いや高さに変化はないが、微動発生後に白色噴煙が火山灰混じりの有色噴煙に変わった。

や高さは微動発生前と比べて特に変化はなく、また地殻変動や地震活動に特段の変化は認められず、空振計には強い噴出を示す振動は観測されなかった。

その後の火山活動の状況については、有色の噴煙の噴出は翌 26 日 01 時過ぎまで同様の状態が続き、それ以降は悪天のため確認できなくなっている（27 日 12 時現在まで不明）。微動は 26 日に入っても継続していたが、振幅は次第に小さくなり同日中にはほぼ収まった。

吾妻山 [地震]

いっさいきょうざん おおあな

一切経山（大穴火口付近）の地下、深さ数 km を震源とする微小な地震は、昨年 12 月以降増加傾向にあったが、1 月中旬以降さらに多くなった。1 月 24 日以降は減少傾向がみられるものの、今期間の日回数は 14～32 回、合計は 145 回（前期間は 105 回）と依然やや多い状態が続いている（図 3）。

なお、この地震活動に関係して、噴気活動や地殻変動には特に変化はない。

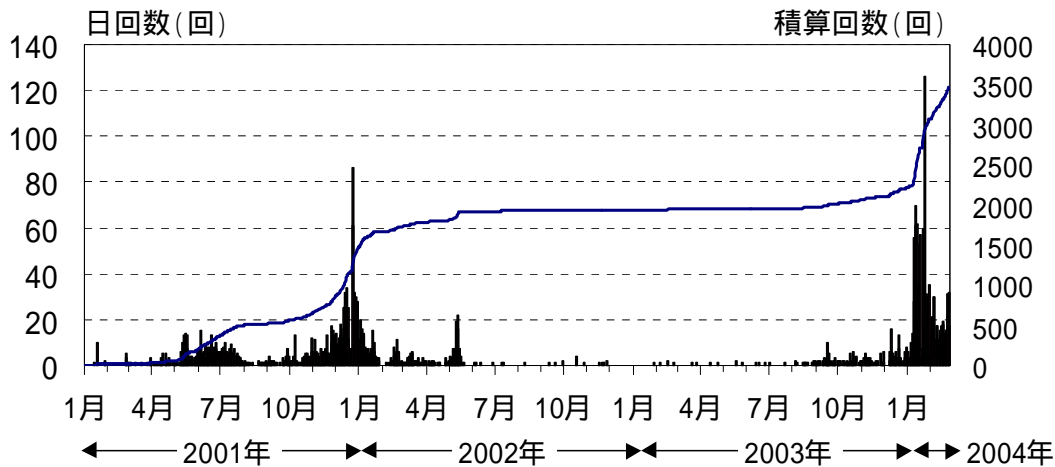


図 3 吾妻山 地震の日回数（折れ線は積算回数）（2001 年 1 月 1 日～2004 年 2 月 25 日）

浅間山 [地震・微動・熱] レベル 2（やや活発な火山活動）

昨年 6 月末頃からやや多く観測されるようになった振幅の小さい地震は、今期間も 1 日あたり 32～90 回とやや多く観測された。

振幅の小さい微動は、2 月 19 日、20 日に各 1 回、合計 2 回観測された（前期間も 2 回）。

群馬県林務部が火口縁に設置している赤外線カメラは、1 月 1 9 日頃から雪のため火口内の様子が見えなくなっていたが、今期間から再び見えるようになり、火口底には引き続き高温部が確認された。

伊豆大島 [地震・地殻変動] レベル 1（静穏な火山活動） <期間外の記述を含む>

期間外の 26 日 16 時頃から、伊豆大島の北西部の深さ 4～5 km を震源とする微小な地震の活動がやや活発になった。地震回数は、26 日 45 回、27 日（11 時現在）105 回で、うち 26 日 23 時～27 日 08 時の間に発生した 6 回の地震に際し、伊豆大島町元町で震度 1 を観測した。

また、26 日 23 時頃～27 日 4 時頃に、伊豆大島の北西部に設置した体積歪計^{ひずみ}で変化が観測されたが、この時間帯には有感地震が発生するなど地震活動が最も活発となっており、その影響とみられる。

なお、この地震活動に関係して、噴煙活動には特に変化はなかった。

三宅島 [噴煙・火山ガス・地震]

噴煙活動は引き続き活発で、白色の噴煙が山頂火口から連続的に噴出した。期間中の噴煙の高さの

最高は火口縁上 500mであった。2月24日に行った上空からの観測¹⁾では、火山ガスを含む青白い噴煙が北東山腹に流れていた。同時に行った赤外線カメラによる火口内温度の観測¹⁾では、最高温度が108であった(前回観測時(2月3日)は118)。

二酸化硫黄の放出量は、2月24日に行った観測¹⁾では日量3,600トンと、長期的には低下傾向がみられるものの依然多い状態であった(図4)。

振幅の小さいやや低周波の地震の回数は、1日あたり5~17回と次第に減ってきている。

GPSによる地殻変動観測では、昨年6月頃から再び三宅島の収縮傾向を示している。

1) 海上保安庁の協力による

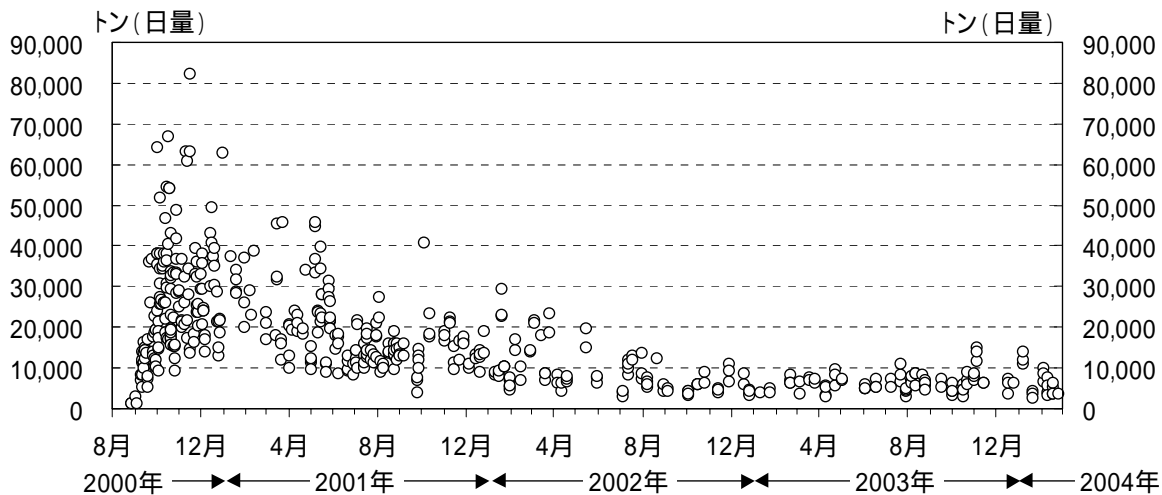


図4 三宅島 二酸化硫黄放出量の推移(2000年8月26日 ~ 2004年2月24日)

阿蘇山 [熱・微動・地震] レベル2 (やや活発な火山活動)

中岳第一火口の浅部の熱的な活動が活発で、孤立型微動が多い状態で推移した。

中岳第一火口の状況は、阿蘇火山博物館が火口縁に設置している監視カメラによる観測で、2月19日、20日、21日に、湯だまりから土砂噴出が発生しているのを確認した。

孤立型微動が958回(前期間は1,471回)、B型地震も41回(前期間は44回)と依然多い状態で、浅部の火山活動がやや活発であった。

その他は、A型地震の発生は少なく、噴煙活動やGPS等による地殻変動の観測データには特段の変化はなかった。

雲仙岳 レベル1 (静穏な火山活動)

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも異常な変化はなかった。

桜島 [爆発・噴煙] レベル2 (比較的静穏な噴火活動)

期間中2回の噴火があり、うち1回が爆発であった(噴火の発生は1月12日の爆発以来)。噴煙の高さの最高は火口縁上1,000m(灰白色)であった。鹿児島地方気象台(南岳の西南西約11km)では、今年に入ってから降灰は観測されていない。

口永良部島 [微動・地震]

2月24日06時12分に振幅の大きな微動(継続時間1分13秒)を観測した。また、微動発生後か

ら微小な地震が増加し、24日の日回数は22回となった。地震活動は、2月2日に多発して以降増減を繰り返しており、今期間の合計は41回であった（前期間は100回）（以上図5）。

2月19日～24日に実施した火山機動観測によると、これらの地震や微動の活動に関して、^{しんだけ}新岳や^{ふるだけ}古岳の噴気活動などに異常な変化は見られなかった。

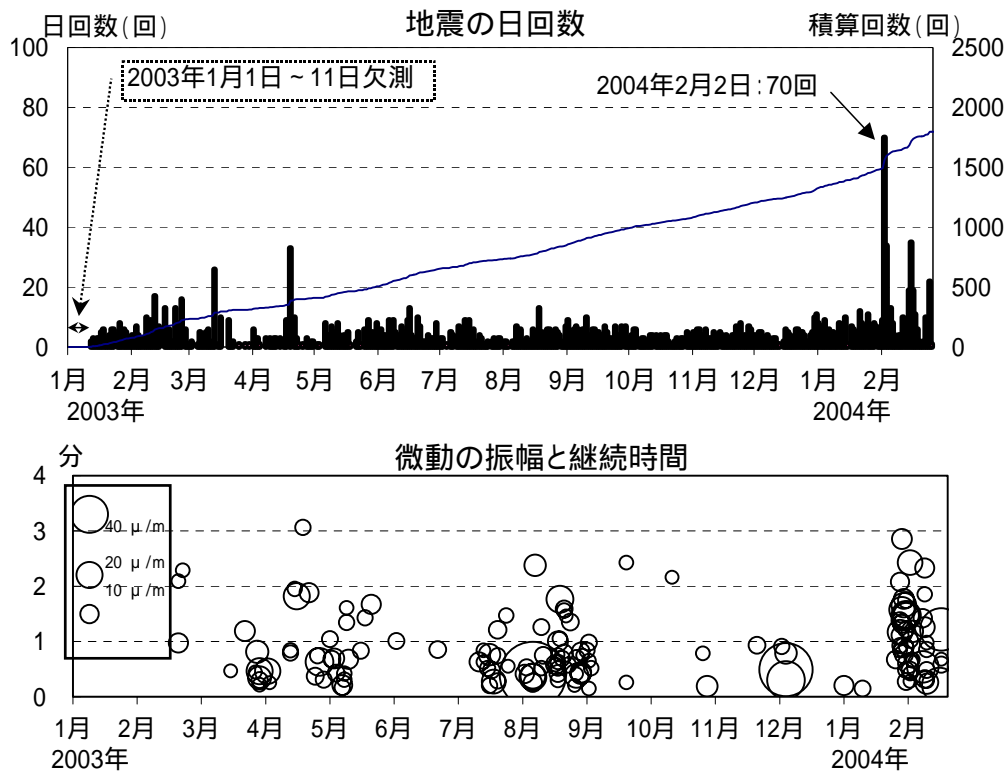


図5 口永良部島 地震の日回数（折れ線は積算回数）及び微動振幅と継続時間（2003年1月1日～2004年2月25日）

表2 火山情報発表状況（本文中で期間外の記述をした火山については当該期間の情報を含む）

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
十勝岳	火山観測情報第1号	26日 10:30	微動の発生、有色噴煙の確認。
伊豆大島	火山観測情報第1号	27日 10:30	地震活動がやや活発。レベルは1。
三宅島	火山観測情報第96号 (1日2回発表)	19日 09:30	活動経過ほか（噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想）。
	火山観測情報第109号	25日 16:30	
阿蘇山	火山観測情報第16号	20日 11:10	火山活動が引き続きやや活発（湯だまりから規模の小さい土砂噴出が継続、孤立型微動が多い状態）。レベルは2。
霧島山	火山観測情報第13号	20日 15:00	御鉢の火山活動は収まっているが、火口内や南側火口縁では引き続き注意。
口永良部島	火山観測情報第10号	20日 15:00	火山活動は活発な状態 地震・微動が減少。
	火山観測情報第11号	23日 15:00	火山活動は活発な状態 地震が増加。
	火山観測情報第12号	24日 11:50	振幅の大きい微動が発生、地震が増加。